地域企業（自治体）お題解決プログラム

第１回　オリエンテーション

2021年10月5日

琉球大学　畑中　寛

１．本科目受講生の構成

① 琉球大学 共通教育科目キャリア科目
「地域企業（自治体）お題解決プログラム」
学生７人受講

② 琉球大学 公開授業
「地域企業（自治体）お題解決プログラム」
社会人10人受講

③ 琉球大学沖縄県教育委員会との協定に基づく高大連携事業（高校生を対象とした公開授業）
「地域企業（自治体）お題解決プログラム」
県立宜野湾高等学校３人受講

２．本科目の特徴

1. 学生と社会人が協働で地域の課題解決に取り組むＰＢＬ授業【ディスカッション・ファシリテーション】
2. 地域課題の発見及び解決を学生達が主体的に取り組む【アクティブラーニング】
3. 自治体の地域課題に関するレクチャーを踏まえ、現地視察を行う【フィールドワーク】
4. 学生の視点から実現性の高い提案に取り組む【フィージビリティ】
5. 中間報告及び最終発表会にて提案を発表する【プレゼンテーション】

琉球新報（2019.12.13、2020.02.11）

地域課題解決へ 西普天間を視察

宜野湾、琉大が公開講座

【宜野湾】地域課題を解決する人材を育成するため、琉球大学はこのほど、宜野湾市で「初級地域公共政策士」の資格取得に向けた公開講座を開いた。ぎのわんヒルズ通りの店舗や西普天間住宅地区跡地を視察するフィールドワークに、学生や社会人13人が参加した＝写真。

受講生は地域活性化に向けたアイデアを提案するなどした。受講した我如古誉幸さんは「西普天間周辺は可能性がたくさんある」と振り返った。

宜野湾・読谷の未来描く

地域公共政策士講座 課題解決へ提言

大学生と社会人が地域の課題解決に向けた企画を提案する琉球大学の公開講座＝４日、同大

【宜野湾・読谷】地域課題を解決する人材育成に向け琉球大学は４日、「初級地域公共政策士」の資格取得公開講座の最終発表会を同大で開いた。昨年10月から今年１月までフィールドワークなどを実施した学生や社会人らが、宜野湾市と読谷村の課題解決への企画を提案した。

市職員も参加した宜野湾チームは、米軍キャンプ瑞慶覧・西普天間住宅地区沿いにある「ぎのわんヒルズ通り」周辺を調査。今後開発が進む同地域で、隣接する普天間高校と琉大の学生らでまちづくりをデザインする「ぎのわん未来研究所」の設立を提言した。

チームメンバーは企画実現に向けたスケジュールや予算なども説明し、「次代を担う若い学生が、市の未来を考え、まちづくりを実践し、どこにもない沖縄一の『とがった街ぎのわん』を実現する」と強調した。

読谷チームは本島を縦断する鉄軌道計画について、残波岬など魅力ある場所が村にあるとして、鉄軌道が村内を通過するメリットなどを訴えた。発表会には市や村役場職員らも来場し、多くの意見交換がやりとりされた。

琉球新報（2021.02.18）

SNSで魅力発信 ■ 空き店舗で起業支援

若者らまちづくり提案

琉大と宜野湾市提携 公開授業で発表

宜野湾市のまちづくり提案について議論するオンラインの最終発表会＝1月26日

【宜野湾】琉球大学と宜野湾市が連携する公開授業「学生がデザインするまちづくり」の最終発表会が1月26日、オンラインで開かれた。宜野湾高校や琉大の学生、社会人らでつくる3チームが、会員制交流サイト（SNS）などを活用して若者と地域をつなぐ提案をした。

昨年10月から始まった授業で、市職員から市の観光や産業の振興を学んだり、普天間でフィールドワークを通して地域を学んだりした。

チーム1は発表で、普天間は「おしゃれな店がたくさんあるのに知られていない」として、周知不足の課題を挙げた。その解決のため、スマートフォンのアプリでスタンプラリーを実施し、学生と地域をつなぐことを提案した。

チーム2は、普天間に「長くいられる場所がない」「基地の印象が強く怖いイメージがある」といった課題を指摘。写真共有アプリ「インスタグラム」で「フテンマグラム」というアカウントを作り、魅力を発信することを提案した。

チーム3は、普天間について「シャッターが閉じている店舗が多い」一方、「教育機関があって学生が多い」と分析した。その上で、空き店舗を利用し起業したい学生に提供し、自由に事業が展開できる拠点をつくることを提案した。